

# ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

## 第63年度(平成24年度) 通常総会開催される

### 第41回 全国酪農青年女性酪農発表大会①

管理部だより

クラウドって何？

—組織体とクラウドコンピューティング—

嫁・婿が語る酪農の魅力／長壁 明美さん



酪農トピックス／  
第24回飛騨高山クリーン作戦(飛騨酪農協より)ほか  
春の褒章 受賞記念祝賀会

人事異動

お知らせ 節電目標の改定について

日本酪農見て歩紀 (福島県本宮市 (株)T・ユニオンデーリィ)



8

2012 August No.563



全国酪農業協同組合連合会

# 通常総会開催される

本会は、7月26日(木)、グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール(東京都港区高輪)において、第63年度通常総会を開催し、第62年度(平成23年度)の事業実績、剰余金処分案、第九次中期事業計画、第63年度(平成24年度)の事業計画等の承認を得るとともに、役員の変更を諮った。

午後1時、定刻開始となった総会の冒頭、挨拶に立った砂金基太郎代表理事会長は、はじめに会員並びに来賓各位の参集に対して謝意を表した。また、九州で発生した、集中豪雨の被災者に対し、心からのお見舞いの言葉を述べた。

そして、昨今の厳しい酪農情勢については、「発生から一年半が過ぎた今も、東日本大震災、原発事故の痛手は残ったままだ。東北では、いまだに避難生活が続く酪農家もおられる。牛乳乳製品の風評被害も続いており、牧草地の除染、汚染された飼料や堆肥の処理も進んでいない。一刻でも早い解決のため、行政のご協力をいただけるよう、関係団体と共に要請活動を続けているところである。

また、全国の酪農も、ここ数年の生産基盤の弱体化は深刻だ。各指定団体とも、今後3年間を实質増産計画としているが、少子高齢化や景気の低迷による牛乳乳製品の消費低迷、T P P参加問題や日豪E P A交渉の行く末に不安があることから、増頭、規模拡大へ進めないというのが生産現場の実情ではないか。」と述べた。

続いて、飼料情勢については、「米国では、雨が少なく、高温乾燥の天候により、トウモロコシをはじめとして穀物が大きな打撃を受けており、シカゴ取引所の価格が急騰している。

米国農務省も『国土の6割が干ばつにあり』、『1988年の大干ばつ以来、最も深刻な状況』にあることを表明した。

今後、我が国の酪農並びに食品業界にも、大きな影響が出るのではないかと強く懸念している。」と述べた。

そして、「そのような中、私どもは、酪農専門の全国連として、全国の酪農生産基盤を強化し、後継者の育成に努めること、そして酪農経営が永続的に継続できること、その実現が極めて大きな課題と考えている。」と述べた。

続いて、事業計画については、「今年度を初年度とする第九次中期事業計画でも、『酪農生産環境整備の推進』をはじめとする基本方針を掲げた。

我が国の酪農は、安全で安心な牛乳乳製品を安定的に消費者へ供給し、広大な牧草地は国土保全の役割を果たしている。

一人一人が、酪農という仕事に自負を持ち、安定的な経営が営めるよう、私ども全酪連は、その牽引役として、会員の皆様とともに邁進する所存である。

日頃から、会員、酪農家の皆様からは多大なご理解とご協力をいただいております。深く感謝申し上げますとともに、引き続き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。」と述べ、開会の挨拶を終えた。

本総会には来賓として、農林水産省生産局畜産部・荒



挨拶をする砂金会長

川隆部長、農林中央金庫・押久保直樹常務理事をはじめとして、社団法人中央畜産会、社団法人中央酪農会議、社団法人全国酪農協会、社団法人全国農協乳業協会等関係団体から多数のご臨席をいただいた。

そして、来賓挨拶の中で農林水産省の荒川部長は、「現場の生産者の皆様は引き続き大変厳しい状況にあり、そのような中、全酪連が酪農専門農協の全国連として率先して酪農生産者の支援に当たってきたことに深く敬意を表する。

現在も引き続き行っている放射性セシウム検出による代替飼料事業については、全酪連が最初に、しかも大規模に活用するということで、酪農家の皆様がどれだけ安心したかと思うと、事業運営に当たっては感謝申し上げます。

昨年の震災後の停電等による生乳廃棄等の混乱後、放射性セシウム問題、除染の問題、代替飼料の問題で、引き続き生産者の皆様に御苦労いただいていると承知している。私どもも微力ながら100ベクレルの基準値を下回る牧草の再生産に向かっているが、県によっては50ベクレル、あるいは取引先によってはゼロ・トレランス(不検出)等、現実・実態はもっと厳しいという声も伺っている。酪農家の皆様が自分の牧草地で安心して牧草を生産できるように、あるいは放牧地を活用できるように



農林水産省 荒川部長

するためにも、今年は除染の要になる年であると思っ  
ている。  
限られた予算ではあるが、先導事例を実証するとも  
に、東京電力(株)への賠償についても、生産者の負担になら  
ないような形で行えるような仕組みを都道府県当局と二  
階に作り上げていきたい。ようやく除染の動きが見えてきた  
ところであるので、今後ともしっかりと対応してまいりたい。  
生乳生産については、今年4月から食品中の放射性物  
質の基準値が大幅に厳しくなったところだが、ただでさ  
え生産者の皆様が大変だったところ、なお一層の飼養管  
理の問題、餌の問題と厳しい対応を強いられると承  
知している。  
消費者の皆様が敏感になっている食品の放射性物質に  
ついて、牛乳・乳製品の安全性を確保するとともに、安  
ん心感を持っていただけるようにするためには、やはり、  
酪農生産現場の皆様にご尽力をお願い申し上げな  
ければならないと思っている。私どもも、引き続き  
取り組み所存でありますので、ご協力をお願いしたい。  
生乳需給については、北海道と都府県の制度の違いと、  
北海道での規模拡大による離農減少分の吸収で、これま  
で生乳生産量の確保をしてきたが、ここ数年の需給状況  
をみると、以前に増して生産基盤が弱体化している。

都府県の酪農基盤をどうするのか、地域として酪農生  
産基盤をどのように守っていくかということを考えてい  
かなければならない時期だと思っており、これは生産者  
団体の皆様方をはじめ、消費者の皆様、乳業メーカーに  
も協力いただいで、生乳生産基盤対策が打ち出せない  
か模索してまいりたい。

配合飼料価格については、7〜9月の価格については、  
先般、配合飼料メーカー等の価格引上げに伴い、補てん  
金の支払いを決めさせていただいた。10〜12月の価格に  
ついては、過去の事例を参考にしながら、これからの数  
カ月の相場の状況、為替の動向をしっかりと注視して酪  
農生産者の皆様に不安のないように政策対応していき  
たい。」と述べられた。

また、農林中央金庫の押久保直樹常務理事は、「東日  
本大震災以降の厳しい酪農情勢の下で、酪農家の家計安  
定のためご尽力されていることに、心から敬意を表  
したい。当金庫としても、今後も復興支援に全力を挙げ  
ていくとともに、引き続き皆様方に安定的な還元と会員  
の皆様ならびに農林水産業者へのサポートの一層の充実  
強化に取り組んでまいります。

国内の農業をめぐる情勢は、新興国の経済成長を背景  
とした穀物価格の上昇、TPPをめぐる動きの不透明さ、  
農業所得の減少、人口減少、高齢化による担い手不足等  
の課題が山積している。このような中、酪農業界を取り  
巻く環境は、放射能問題や、全国的な生乳生産量の低  
下、飼料価格の高騰等、非常に厳しい状況が継続してい  
ると認識している。

このような厳しい状況にあっても、貴会におかれては  
平成23年度において順調な決算内容だったと伺っている。  
これも、ひとえに会員皆様のご協力と、砂金会長のリー  
ダーシップの下、役員員のご努力の賜物である。

平成24年度も引き続き厳しい状況の中ではあるが、貴  
会としては全国連としての一層の役割発揮が期待されて

平成23年度事業実績及び平成24年度事業計画

(単位: 百万円)

科 目	平成23年度 実績 ①	平成24年度 計画 ②	②/①対比
酪農事業 (取扱金額)	10,618	10,376	98%
購買事業 (取扱金額)	72,070	72,616	101%
総取扱金額	82,688	82,993	100%
事業総利益	12,254	11,708	96%
販売費用	7,545	7,895	105%
事業管理費	3,087	3,234	105%
事業利益	1,622	578	36%
事業外損益	209	10	5%
経常利益	1,831	589	32%
特別損益	△503	△161	32%
税引前当期利益	1,329	428	32%

いる中、将来の酪農業界を見据えた施策の検討等も求め  
られているものと認識している。

引き続き、貴連合会と会員が一丸となって諸課題に適  
切に対処することにより、安定した酪農経営を実現され  
ますとともに、将来に渡り豊かな食生活に対する国民の  
期待に応えることを期待する。」と挨拶された。

この後、幅田信一郎氏(大山乳業農業協同組合、代表  
理事組合長)を議長に選出して議事に入り、いずれの議  
案も原案どおり賛成多数で承認された。

また、第6号議案「役員員の選任に関する件」におい  
て、役員改選を行い、新たに役員を選任した。

なお、本総会後の理事会において、代表理事長に砂  
金甚太郎氏が選任された。(新役員については、次頁のと  
おり)

# 新役員体制決定

～代表理事会長に砂金会長が再任、  
副会長に吉田理事と大槻理事が再任～

本通常総会において役員改選が行われ、  
下記のとおりの新役員体制となりました。  
また、通常総会終了後に開催された第  
461回理事会において、代表理事会長をは  
じめとする新執行体制が決定されました。



●代表理事会長  
**砂金 甚太郎**  
みやぎの酪農農業協同組合  
常勤



●副会長理事  
**吉田 孝壽**  
熊本酪農農業協同組合連合会  
非常勤



●副会長理事  
**大槻 和夫**  
茨城県酪農農業協同組合連合会  
非常勤



●代表理事専務  
**坂本 壽文**  
実務精通役員  
常勤



●常務理事  
**赤坂 陽次**  
実務精通役員  
常勤



●常務理事  
**蛭田 泰昭**  
実務精通役員  
常勤/新任



●常務理事  
**中村 公吾**  
実務精通役員  
常勤/新任



●理 事  
**宇佐美 忠孝**  
愛媛県酪農農業協同組合連合会  
非常勤



●理 事  
**奥澤 捷貴**  
千葉県酪農農業協同組合連合会  
非常勤



●理 事  
**菊池 一郎**  
酪農とちぎ農業協同組合  
非常勤



●理 事  
**小湊 保**  
中春別農業協同組合  
非常勤



●理 事  
**塩見 忠則**  
兵庫県酪農農業協同組合連合会  
非常勤



●理 事  
**但野 忠義**  
福島県酪農農業協同組合  
非常勤



●理 事  
**東山 基**  
おかやま酪農農業協同組合  
非常勤/新任



●理 事  
**真坂 圭一**  
北オホーツク農業協同組合  
非常勤



●理 事  
**馬瀬口 弘志**  
岐阜県酪農農業協同組合連合会  
非常勤



●理 事  
**南原 需**  
鹿児島県酪農農業協同組合  
非常勤



●代表監事  
**佐々木 勲**  
岩手中央酪農農業協同組合  
非常勤



●常任監事  
**肥後 俊一**  
常勤



●監 事  
**尾形 文清**  
ふくおか県酪農農業協同組合  
非常勤



●監 事  
**大久保 克美**  
東毛酪農農業協同組合  
非常勤

# 第41回 全国酪農青年女性 酪農発表大会

①

酪農経営発表の部



## 農林水産大臣賞を 塩野谷 孝二さん(北海道会議)が受賞!!



大井幸男委員長

まず初めに、全国酪農青年女性会議・大井委員長より、主催者挨拶が述べられました。「意見・体験部門においては農林水産大臣賞を返上しての大会となる。ここに至るまでは侃侃諤諤、また賛否両論ある中、諸先輩方が築きあげてきたものを否定するのではなく、その礎に乗り、新しい方向への転換となる。発表者と会場の皆様、夢と希望を共有し合える

7月12日(木)～13日(金)の両日、兵庫県神戸市「神戸国際会議場」で全国の酪農生産者および関係者約550人が参集し、「第41回全国酪農青年女性酪農発表大会」が開催されました。  
平成22年度は口蹄疫により大会は中止、平成23年度は東日本大震災の影響により延期となったため、今年の大会は3年ぶりの開催となりました。  
大会二日目、一若信彦副委員長の総司会、野村栄一監事による開会宣言で開会、前田哲也副委員長による綱領唱和につづき、主催者として全国酪農青年女性会議・大井幸男委員長と本会・砂金甚太郎代表理事会長からあいさつがありました。

大会に、一歩をこれから踏み出そうとしているところである。会場の皆様がこの大会に出てよかった、発表者が発表してよかった、また、共感、感動する発表大会を目指し、邁進していく所存である。最後に、ここ神戸が平成7年に阪神・淡路大震災により被災し、復興を遂げた。その英知と努力を見習い、大会開催の地をここに選んだ。東日本大震災により被災された皆様、いまだに復興が進まない日本、ここ神戸の地から、元氣とパワーを日本中の酪農に、日本国民すべての方々に、発信していきましょう。」

続いて砂金会長より、挨拶が述べられました。「本大会は一昨年、口蹄疫発生の関係で形式を変えての実施となり、昨年は東日本大震災の影響を受けて本大会は延期となったが、代わりに札幌で全国酪農フォーラムを開催し、口蹄疫及び東日本大震災の被害地に応援メッセージを発信した。従って、経営発表及び意見・



砂金甚太郎会長

体験発表を行う本来の形での酪農発表大会は3年ぶりの開催となった。おそろく、私も含めて、ここにいらっしやる全国の酪友の皆さんの多くが、この2年の間に初めて体験するような大変な経験をされ、そのご苦労と心情はいかばかりであるかということに思いをはせると、察するに余りあると存ずる。未だ、原発被害による除染対策、堆肥問題、放射性物質による風評被害の問題等は解決の兆しが見えていない。また、世間では、各地で頻発する異常気象もさることながら、民主党分裂問題、欧州債務危機問題、そしてTPP問題等国内外の政治経済情勢が不安定で混沌とした状態である。そして、見通せない政治、経済、外的な影響も受け、酪農乳業の情勢、概況は言うまでもなく極めて厳しい状況にあることにご承知の通りである。しかし、このような状況下、現状に対する不満の吐露や将来を不安視しているだけでは展望は開



総会司会を務めた二若副委員長

けないし、これから酪農経営に携わる後進へ譲るべき道すら見出すことはできない。よって、我々は絶えず前を見て、国土保全の役割を担っている酪農を営んでいるというプライドを胸に、良質で安心安全な牛乳乳製品を国民へ供給させてもらっているという自負と責任に基づき、今年度は着実な生乳の増産を目指し、生乳需給の安定化に寄与することが期待されている。本日は3年ぶりの再会であり、大いに語り合い、情報交換し、たつぷりと親交、旧交を温めていただきたい。本大会での交流が、明日からの皆様の酪農経営への活力となることを願い、ご挨拶とさせていただきます。」

続いて、農林水産省生産局畜産部畜産企画課課長補佐 富澤宗高氏より、生産局長 今井敏氏の祝辞が述べられました。「全国から選ばれた発表者の皆様に心からお祝い申し上げますとともに、これまでのご努力に深く敬意を表したい。昨年は東日本大震災やそれに伴う原発事故により、未曾有の大災害により、酪農・

畜産業も多大な影響を受けた。さらに原発事故に伴う出荷制限等に係る損害や、深刻な風評被害による損害も生じている中で、東北・関東のみならず本日お集まりになられた皆様すべてが、大変苦労なさらながらも、正常化にご尽力いただいていることに改めて御礼申し上げます。震災にあたって、関係団体の皆様方においては、安定的な飼料供給等にご尽力いただいているとともに、昨年度は本大会に代えて、被災された酪農家や酪農関係者の皆様の応援のために、酪友フォーラムを開催されるなど、被災地の支援に努められ、本年度も様々な支援を実施、あるいは実施される予定である何とおあり、深く敬意を表する。我が国酪農畜産業は、安全で良質な畜産物を消費者に安定的に供給するのみならず、地域経済の維持、活性化等を通じ、国民生活に重要な役割を果たしている。農林水産省としても、震災からの復興はもちろんのこと、酪農畜産業の一層の充実に努めてま



農林水産省 富澤課長補佐

いる所存である。こうした中、全国の酪



兵庫県 伊藤部長

農家の研鑽と交流を図る場である本大会は、大変貴重な機会であると考えている。本日紹介される酪農経営に携われる女性や若い担い手の方々の経営生産技術に関する優れた取り組みが、全国の酪農家の経営の参考として、広く普及し、生産性が高く、豊かでゆとりある酪農経営の確立に資することを期待している。」

次に、兵庫県農林環境部長 伊藤聡氏より、兵庫県知事 井戸敏三氏の祝辞が述べられました。「酪農を取り巻く状況は大変厳しいものがあるが、それを乗り越え、本日、明日の酪農を担う若手酪農青年や女性の皆様一堂に会し、一致団結して本大会が開催されることは大変意義深いことである。また、各地から選ばれた発表者の熱意と希望にあふれる発表は全国の酪農家への力強い励ましメッセージになるものと確信している。また、2年の歳月を経て開かれる大会が、今回、阪神・淡路大震災から復興した兵庫において開催されることは、意義あるものと思う。牛乳は『神様が人間

に与えられた最も完璧に近い食品」と言われています。今後とも、皆様の牧場で生産される安全で安心な牛乳をしっかりと消費者に届けていただければと希望している。本県では、『農』を『いのち』と『くらし』を支える基盤と位置づけ、本年3月『ひょうご農林水産ビジョン2020』を策定し、『攻め』の姿勢で力強い農林水産業の再生に取り組むこととしている。『おいしいね。兵庫の牛乳もう一本。』を合言葉に、雌雄判別精液を活用した改良事業や兵庫の酪農の良さを消費者に理解していただく事業などを展開している。本日、ご参加の皆様も発表いただいた様々な取組や工夫をそれぞれに、皆様の絆をより一層深め、酪農の発展にご活躍いただくことを期待している。」



神戸市 植田部長

もに、今日まで、幾多の困難を乗り越えてこられたことに、深く敬意を表する次第である。神戸市においても、17年前の阪神・淡路大震災では多くの困難に見舞われたが、この震災を契機に生まれた『絆』によって、ともに助け合い、復興を果たしてきた。東日本大震災で被災された地域においては、生活や産業の再建が早期に進むことを心から願うとともに、震災を経験した神戸だからできる被災地へ心をつなぐ支援を続けてまいりたいと思う。さて、牛乳をはじめとする乳製品は、日本の食生活に欠かすことのできない重要な基礎的食品である。酪農家の皆様方には、今後さらに研鑽を重ねていただき、消費者に対して、新鮮で安全安心な質の高い牛乳・乳製品をご提供いただきたい。本大会で発表いただく皆様には、酪農経営に寄せる熱い思いと、目標や夢の実現に取り組まれる姿を、ご披露いただきたい。全国各地からお越しいただいた酪農関係の皆様方においては、発表者の経営改善に取り組む姿勢を、ご



功労者を代表して挨拶をする黒沢氏

自身の酪農経営と照らし合わせるとともに、お互いの体験を共有し、今後の酪農経営及び生産性の向上に生かしていただきたい。全国の酪農生産者が一堂に集い、相互の親睦交流と酪農経営の品質向上に取り組まれることは、誠に時宜を得た、意義深いものと考ええる。」

主催者、ご来賓の挨拶に続き、当会議の役員委員として長年に渡り会議活動に参加され、昨年の改選において役を退いた方への功労者表彰がありました。今年度は、東北会議の黒沢寛寿さん、九州会議の加藤エミ子さん、中部会議の野口千恵子さん、九州会議の荒木和也さんが対象となり、大井委員長より感謝状と記念品が授与されました。

開会式終了後、酪農経営発表、第39回らくのうごどもギャラリーの表彰式、酪農意見・体験発表をもって1日目の日程を終了しました。



◀ごどもギャラリー特選に輝いた横山恵也くん



佐藤委員のインタビューを受ける横山恵也くんとお母様

2日目は、第3回酪農いきいきフットコンテストの表彰式がありました。この企画は、牛乳の生産現場を消費者に知ってもらうことを目的に行っており、今年は、総応募数37点が全国大会で揭示されました。参加者投票による審査の結果、北海道酪農青年女性会議 富岡一也さんの作品が見事最優秀に選ばれました。

続いて両部門発表者との質疑応答、審査講評・表彰、佐々木総隆監事による大会宣言朗読の後、結城五子副委員長による閉会の辞をもって全日程を終了しました。

酪農経営発表の部の最優秀賞には北海道酪農青年女性会議代表の塩野谷孝二さん、酪農意見・体験発表の部の最優秀賞には北海道酪農青年女性会議代表の中村由美子さんが選ばれました。

## 酪農経営発表の部 審査講評

福田 晋 審査委員長



今回の審査に当たりましては、酪農経営の収益性、経営の安定性・発展性、飼養管理技術水準、資源循環型酪農の実践、食品の安全性への配慮、組合・地域活動への貢献という6つの大会審査規定に基づき、厳正な審査を行いました。

本年度発表された6名の方々は、それぞれ異なる立地条件の中で、積極的な地域資源の活用を行いながら、無理な規模拡大を迫りせず、経営安定と収益性

の確保のために努力されていることが共通した特徴でした。また、実質的に経営の柱となつて経営に参画している様子が伺え、審査委員一同大変感銘をうけました。

それでは、審査の中で特に印象に残った点、そして今後さらに期待したい点について、発表順に申し上げます。

## 歩みを止めず、すぐさま行動を

九州酪農青年女性会議 立作 浩一氏



立作牧場は、熊本県南部の球磨郡錦町に立地し、ご本人夫婦と両親の4人で経産牛47頭を飼養しています。

「規模拡大は循環型酪農基盤の確保から」を経営の基本とし、5.7 haの自作地の他に、4.5 haの借地、4.6 haの期間借地を集積して牧草体系で粗飼料自給率83.4%を達成しながら、経産牛1頭当たり9,012 kgの乳量を実現しています。

未經産牛の9割には性別別精液を利用

し、F1や和牛ET生産も行っていきます。ミルク1部品の改善等により乳房炎を減少させるとともに、牛群検定成績によって乳房炎牛を淘汰し、乳質安定に努めています。

借入金なしの堅実経営の傍ら、基盤整備の換地委員長や乳牛改良同志会の会長等も務め、地域においても主体的な活動をなさっています。今後も循環型酪農を基本に規模拡大と牛群改良に努められることを期待します。

## 地域と共に生きる酪農

東北酪農青年婦人会議 鈴木 正隆氏



鈴木牧場は、福島県の開拓地である矢吹町に立地し、ご本人は平成13年に地元

の農協を退職して農業専従となり、平成16年に経営移譲され、現在ご本人夫婦と母親の3人で経産牛33頭を飼養しております。先の震災により家屋の倒壊と言

う被害を受けましたが、幸い牛舎等の被害は甚大ではなく、経営を続けておられます。

的な借地により飼料基盤を拡大し、コーンサイレージの通年給与を基本としており、今後は機械利用組合への参加も視野に牧草の作付も検討しています。

家族労働力に見合った規模で、乳質、繁殖成績の向上に努めており、自家育成100%を目指しています。また、積極

さらに、樹脂を利用した屋根の吹き替えによりカウコンフォートの向上に努め、堆肥製造には水田地帯で手に入りやすいもみ殻を大量に利用する等の工夫が随所に見られます。

今後、育成・乾乳舎の建設、繁殖成績の向上、飼料自給率の向上により、一層の所得拡大が期待されます。

## 持続性のある牛づくりを目指して

仲間とともに達成した1万kg牛群

西日本酪農青年女性会議 江本 洋子氏



江本牧場は、徳島県吉野川市に立地し、昭和53年に結婚後翌年に牛舎を新築され、現在、ご本人夫婦と長男の3人で経産牛57頭を飼養されています。

平成10年から、地域の酪農家による勉強会で乳検データの読み方や牛の観察の仕方

を学び、飼料給与の改善、飼槽、水槽、牛床の改良、送風機の設置等のカウコンフォートの改善に努めた結果、平成13年の経産牛1頭当たり乳量6,900 kgが、

平成18年には1万kgを越えるまでになりました。乳質も向上、疾病も減少しています。

その結果、経産牛1頭当たり所得約40万円、家族労働力1人当たり所得67.6万円、所得率35.7%と極めて高い収益を実現しています。

現在、成牛の粗飼料はすべて購入に依存しておられますが、今後は河川敷利用やコントラクターの利用も考えており、地域資源を活かした酪農経営の実践が期待されます。

## 次世代放牧への挑戦

放牧で高泌乳牛を健康に飼う

北海道酪農青年女性会議 塩野谷 孝二氏



塩野谷牧場は、北海道洞爺湖町に立地し、ご本人夫婦と雇用労働力の3人で経産牛51頭を飼養しておられます。また、アイスクリーム製造等6次産業にも参入しています。

平成11年から放牧を開始し、研究機関やコンサルタントの指導を受けながら土壌分析に基づく施肥設計を行い、化成肥料、除草剤は用いずに草地作りに励んできました。放牧期にもコーンサイレージ

給与で濃厚飼料の給与を抑え、粗飼料自給率100%を達成しています。放牧に適した牛群選抜のため、育成牛の早期放牧開始にも努めています。

このような放牧酪農の実践により、乳飼比26・4%、家族労働力1人当たり約835万円の所得を達成しています。

今後は、放牧地を20haまで拡大しながら乳量を高め、1年1産の次世代放牧を目指しておられます。

## 一石三鳥私の挑戦

和牛子牛生産への新たな取り組み

中部酪農青年女性会議 伴 奈生子氏



伴牧場は、有数の農業地帯である愛知県豊橋市に立地し、ご本人夫婦、長男、両親とともに、経産牛45頭を飼養しておられます。

乳牛の改良に熱心に取り組み、雌雄判別精液の利用、自家採卵を実施し雌雄判別受卵の移植等を行うことよって、高能力牛を確保してこられました。また、和牛の受精卵移植にも取り組んでおられます。

一方、積極的な借地を行い、8.5haの飼

料基盤を確保しながら、3戸の仲間と飼料作機械の共同利用を行い、効率的な収穫作業体系を確立しています。その結果、経産牛1頭当たり約9,000kgの乳量を受け、家族労働力1人当たり約447万円の所得を達成しておられます。

また、女性グループで子牛の疾病防止のためにベストを作成したり、地域の生乳だけ利用した地域限定商品の販売にも取り組む等、地域活動にも積極的に取り組んでこ

られました。

今後は一層の自給飼料基盤の拡大、個体

能力の向上、和牛子牛生産の拡大等により所得向上が期待されます。

## 循環型の酪農経営を目指して 複合型経営の酪農家として出来ること

関東甲信越酪農青年女性会議 小松 正平氏



小松牧場は、長野県伊那市高遠町に立地し、平成9年に就農したご本人と両親、弟で経産牛40頭と水稲12haの複合経営を営んでおられます。

平成10年に自己資金でつなぎ牛舎をフリーストールに改築し、TMRに切り替えておられます。機械のメンテナンス、修理も自ら行う等コスト削減に努めてこられました。水田地帯で借地を中心にデントコーン約7ha、牧草約11haで粗飼

料自給率約84%、乳飼比31・6%を達成しておられ、堆肥は80%を自家利用し、残りは稲わらと交換する等循環型酪農を実践しています。

今後は、畜舎の改良を行って作業効率をあげるとともに、繁殖成績の向上、自給飼料基盤の確保に一層努め、副産物を活かした循環型酪農を推進することを期待します。

以上、今回発表された6名の方の経営は、いずれも地域を代表する優れた経営でありますので、優劣を判断することは容易ではありませんでした。

その中で、豊富な草地基盤をもとに集約的な放牧飼養を行い、牛群改良と確かな飼養管理技術のもとに、高い収益性を実現している点を考慮し、北海道酪農青年女性会議代表の塩野谷孝二さんの経営を最優秀とさせていただきます。

今回、発表された6名はいずれも与え

られた環境条件をうまく利用され、極めて優秀な経営を実現されております。会場にお越しの皆様におかれましては、6名の経営の優れた点を学んでいただき、それぞれの経営や地域の酪農の発展のためにご活用していただければ幸いに存じます。

以上で講評ならびに審査結果の発表を終わります。

(酪農意見・体験発表の部は次号に掲載します)

# クラウドって何

## 組織体と

## クラウドコンピューティング

### 1 はじめに

「クラウド」と言うキーワードはテレビや雑誌広告等で皆さんも一度は見たことがあると思いますが、目の当りにするたびにIT（情報技術）用語は、しばしば「言葉が一人歩き」する、と感じています。IT用語はただでさえ、英語、アルファベットの頭文字、又はその組合せで表現する用語が多いため、文章の読解や作文に苦労を感じるのは筆者だけでしょうか？

さて、本稿題名にある「クラウドコンピューティング」と言う言葉は、2006年8月にカリフォルニアで開かれた「サーチエンジン戦略会議」の中で、Google（グーグル）の最高経営責任者：エリック・シュミットが『…（略）…「雲」のような、巨大なインターネットにアクセスすれば、その利益、恵みの雨を受けられる時代になっています』と、発言したのが最初とされています。

それから6年の時が経ち、ハード／ソフトの両面ですらなる技術革新が進展浸透する現在では、インターネットを利用できるデバイス（端末機器）は従来型パソコンからウルトラブックパソコン

へ、携帯電話からスマートデバイス（スマートフォン、タブレット端末等）へと進化しました。これに呼応するようにインターネットを利用した（しかも、インターネット接続を特に意識することなく）様々な情報提供や各種サービスが開発提供される等、進化に広がりを見せています。これらインターネット利用を中心とした革新的サービスの利用者は、容易な操作でいつでも安価（大抵は無料）に発信できる情報伝達サービス、コントロール可能な情報拡散性のある情報共有サービス等を使い友人、同僚、家族との連絡・通信の利便性を享受し利用者層もさらに広がっています。

このように一般消費者を中心とした生活情報基盤が爆発的に変革していく潮流がある一方で、ITの内部統制強化や情報セキュリティ施策といった、潮流とはトレドオフ（二律背反）関係となる課題を抱える組織体においてこの潮流を取込むには、トレドオフ問題の高度な解決に加えて、潮流がもたらす組織へのメリットを経営層に明示する必要があります。

本稿では、この潮流を「組織体とクラウドコンピューティング」という角度から、そのメリットとリスクに焦点を当て、「クラウドって何？」の疑問解決一助になれば幸いです。

### 2 クラウドコンピューティングの定義

本稿の読者の大半は酪農、或いは酪農と関わりのある業界を生業とされておられる方々ですので、このことを前提にクラウドコンピューティングの定義を次の通りとしています。

「インターネット関連技術を使い、コンピュータ処理する各種機能を柔軟に『サービス』として外部から提供を受け利用する、或いはその利用形態のこと」（「サービス」として、が必要条件）

また、組織体とクラウドコンピューティングを語るには切り離せないキーワードに、①データセンター、②サーバの仮想化技術、③ネットワークがあり、前提条件になると言っても良いでしょう。

クラウドコンピューティングは技術的な側面から見ると、特段新しい技術が開発された訳ではなく、どちらかと言うと既知の技術や手法の延長線上に発展したものと考えられます。しかし、利用方法等が全く新しいもの（コンセプト）であるため、利用者目線では新技術に見えたり、理解を超えているとして戸惑いを感じたりすると思います。

#### ① データセンター

クラウドサービス事業者（クラウド

プロバイダー）は、自社のデータセンター（DC）或いはDC業者から区画ごと一括で借り上げサーバを設置し、安全稼働のために地震対策、火災対策、自然災害（大雨、落雷）対策、社会災害（爆発、交通事故）対策、停電対策（商用電源の2系統化、自家発電、UPS設備）、防犯対策等の設備をします。情報システム設置場所として、自社ビル等に自前でサーバを保持している場合と比べれば格段の安定稼働が期待できます。このことは東日本大震災のとき直接的な震災影響により稼働できなくなったDCは皆無だったことから物理的設置場所としては最適であることの証明だと思います。

但し、運用中の情報システムを自前のサーバからクラウドプロバイダーに移す場合には、サーバのコンソール（管理端末機）での運用管理がネットワーク越しとなるため、デープ媒体によるバックアップ等と合わせて運用管理方法の変更検討を行う必要があるとあります。

#### ② サーバの仮想化技術

クラウドプロバイダーは、顧客にサーバを提供するにあたり運用コストを抑え提供価格を低くするためにサーバの集約と運用の集中管理を実施しますので、提供されるサーバ（コンピュータ）は仮想サーバになると考えましょう。（もちろん、支払う対価によって専用サーバにできる場合もあります）

表の例のように、顧客A～Dのシステ

ムがあった時、顧客Aのシステムが顧客Bのシステムに直接干渉することはありませんが、顧客Aのシステムが過負荷となる処理を行うと顧客B、Dのシステムが遅くなる等の影響が出たり、共通部であるハードディスク障害時や、仮想化ソフトウェアが何等かの原因で停止したりすると、全顧客システムに影響が出ます。

表 仮想サーバの構成イメージ例

顧客Aのシステム	顧客Bのシステム	顧客Cのシステム	顧客Dのシステム
仮想化ソフトウェア			
ハードウェア (CPU、ハードディスク、メモリ等)			

も適切なネットワークセキュリティに関する防御策を講じ運用していても、上記の仮想化サーバの項目で説明した通り他顧客の情報セキュリティ施策不足によりサーバ機全体が危険な状態となる可能性も考えておかねばなりません。

### クラウドサービスと情報セキュリティ

#### ① 情報セキュリティの三要素

個人利用者と異なり、組織体においては情報資産を守るために情報セキュリティ施策を行います。守るべき「情報資産」が皆無であれば情報セキュリティ施策は必要ありませんが、そのような組織体はまず無いでしょう。また、これらの施策は有効に機能しているか常時監視し、施策自体の見直しをする必要があります。有効に機能すべき情報セキュリティ要素は「機密性・完全性・可用性」で、その英語の頭文字を取ってC・I・Aと呼ばれるています。

可用性 (Availability) : 許可された利用者が必要な時に情報資産にアクセスできること  
(回線の二重化やバックアップシステム等が可用性を高める)

#### ② クラウドプロバイダーとSLA (Service Level Agreement)

クラウドサービスを利用するときはクラウドプロバイダーから提示されるSLAを確認する必要があります。SLAは提供するサービスの水準を文書化したもので契約の前提条件です。

クラウドサービスでは、基本的にサーバ自体がどこにあるか判りませんが、Dの運用要員も紹介されません。確認する上での着眼点としては

- ・クラウドサービス自体の運用管理がどのように行われるか? オペレータのアクセス管理や特権ユーザの管理方法 (DCオペレータによる不正アクセス防止策)
- ・クラウドサービス自体が行う脆弱性バッチの適用ルールや外部からの不正アクセス防止策
- ・クラウドサービス自体の可用性。サーバダウン対策、入館者の管理、電源確保策等

- ・クラウドサービス自体の継続性。事業撤退や吸収・合併によるSLA変更の可能性

#### ③ クラウドサービスと法的利害

クラウドサービスではデータが国内にあるとは限りません。クラウドプロバイダーがサービス基盤をどのように構築しているか判らないからです。複数のDCに一つのサービスを構築していれば第三国にデータが保存される可能性も十分に考えられます。約定には通常、司法当局の令状があればクラウドプロバイダーはデータ開示に応ずる、と謳っているはずですが、このような場合にどの国の法律が適用されるのか十分に検討する必要があります。

このことに関連した有名な法律に、米国家愛国者法 (パトリオット法) があります。2001年に制定 (9・11同時多発テロ以後45日で制定) されており、米国は内外のテロリズムと戦うことを目的に政府当局に対して権限を大幅に拡大させています。実際にテロリストが通信手段として使用したことが疑われた米国のDCで、施設全体が差し押さえられる (当然、全てのサービスは停止して利用不能) という事件も起きています。

#### 4 終わりに

本稿では、「組織体とクラウドコンピューティング」に焦点を当ててきました。皆さんがイメージする形態とは少しずれた感覚を持たれたかも知れませんが、機会があれば「組織体とスマートデバイス導入」のような切り口で寄稿したいと思います。

#### ③ ネットワーク

基本的にクラウドサービスでは、インターネットに接続できる環境さえあればどこからでもアクセスできることとなります。このことは大きな利便性をもたらしますが、世界中のどこからでも (非誰でも) アクセスできることとほぼ同義です。接続するためのIDやパスワードが漏えいした場合は、自社の保有する各データが全世界に漏えいすることと同じリスクとなります。

ネットワークセキュリティに関する防御・自動監視ツールの導入検討や社内での新運用ルールを策定し、利用者に周知・啓発する等の工夫も必要となります。

また、自社・クラウドプロバイダーと

#### 機密性 (Confidential) : アクセスを認可された者だけが情報にアクセスできるようにすること

(IDとパスワードによる個人認証等が機密性を高める)

#### 完全性 (Integrity) : 情報や情報の処理方法が正確かつ完全である (改ざんされていない) こと

(デジタル署名や特権ユーザ管理ルール等が完全性を高める)

# 人も牛も健康で余裕のある酪農経営を目指して

8月の嫁

おさかべ  
長壁 明美さん  
榛名酪農業協同組合連合会

「嫁が語る酪農の魅力」第9弾として、榛名酪農業協同組合連合会の長壁明美さんにお話しを伺いました。



嫁が語る酪農の魅力⑨

—長壁牧場の概要と明美さんの担当について教えてください。

長壁牧場は群馬県高崎市上室田町にあり、所属組合は榛名酪農業協同組合連合会です。

私の牧場では、経産牛180頭、育成牛90頭を管理しています。

家族構成は、主人（清一さん）、長



▶前列左から2番目：ご主人の清一さん、右：明美さん、左：従業員の相川さん、後列左から仲野さん、石関さん、岸さん、愛犬のリユウジくん

男（拓郎さん）、次男（徹郎さん）、長女（歩美さん）、父（勉さん）、母（敏子さん）の2世帯7人家族です。

牧場の管理としては、主人と社員3名（岸さん、神戸さん、仲野さん）、パートさんで搾乳牛・育成牛・哺育牛管理を行っています。私は、サブパーラーの搾乳、繁殖牛管理、事務関係管理（会計等簿記、勤務管理、従業員採用時面接）を行っています。

—ご主人との出会い、結婚までの経緯について教えてください。

私は、前橋市の病院に看護師として勤めていました。勤務先の先輩の紹介で知り合いました。結婚はそれから1年半後になります。

—酪農に対する思いと苦労したことを教えてください。

看護師として仕事を続けることも考えましたが、長壁牧場の嫁として牧場を支えていかなければならない、という思いから長男が幼稚園に



長壁牧場の看板

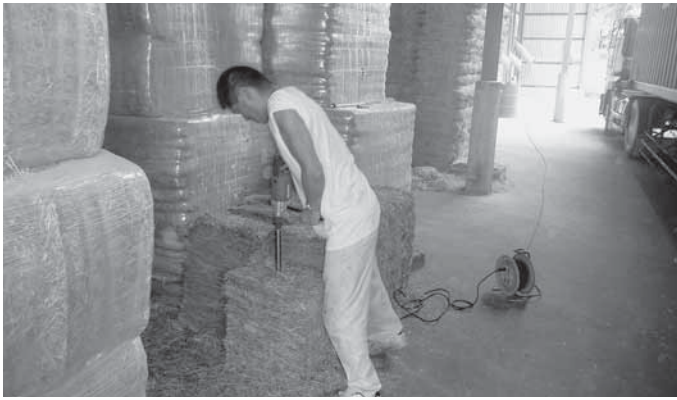


育成牛

入ってから本格的に就農しました。結婚するまで酪農の経験はまったくありませんでしたし、どちらかと

言えば動物は苦手だったので初めはとて不安でした。ただ、足を引っぱりたくないという思いから、がむしゃらに目の前のことをこなしていました。今では、大抵のことは何でもできるようになりました。人手が足りないときは哺乳、搾乳、除糞作業等オールマイティーに動きます。

あと、私が嫁いだころは40頭ものなぎ牛舎だったのですが、平成7年の12月にフリーストール牛舎へ変更したことを契機に増頭と設備投資を



▶ 仕事中の風景（コアサンブラー）

行い、段階を踏んで現在の規模になりました。当初は家族経営でしたが、育成牛の増頭や繁殖管理等も自分で、という主人の意向から会社経営に切り替え、従業員も1人、2人と増えてきました。経営が軌道に乗るまでは必死でした。従業員を含め、皆が共通の理解のもとで作業ができるよう毎日ミーティングを行いました。もちろん今も毎日のミーティングは欠かせません。まだまだ余裕はありませんが、優秀な従業員に助けられ、何とか乗り切れています。授精も従業員に任せています。自分の牛のように1頭1頭管理してくれています。従業員には本当に感謝しています。

——明美さんが思う酪農の魅力について教えてください。

搾りたての牛乳が飲めること!! 酪農家の特権ですね（笑）

あと、子供たちに働く姿を見せることができることです。忙しそうに仕事する私たちを見て、子供たちがすんで作業の手伝いをしてくれています。子供と接する時間はあまり取ってあげることができませんでしたが、自立が早く、思いやりのあ



搾乳牛舎

る子に育ってくれたなと感じています。

また、次男は早くから将来は後を継ぐという気持ちを持ってきてくれて、子供自身も酪農に魅力を感じてくれています。基本的には、私も主人も子供にはやりたいことをやらせたいと考えています。酪農業界も厳しくなってきましたから、後を継ぐことを強制はしていませんが、後を継ぐと言ってくれています。酪

農業界も厳しいので、嬉しさと心配が相まって複雑な心境ではありますが、本人の意思を尊重して、見守りたいと思います。

——今後の夢について教えてください。

現在、飼養頭数が施設の能力を超えてしまっている状態なので、現在の乳量は維持しつつ、徐々に適切な頭数まで減らすことが目標です。また、引き続き作業効率を見直して、作業時間の短縮、作業負担の軽減を行っていきたいです。人も牛も健康で余裕がある経営を目指していきたいですね。

——最後に、ご主人の清一さんより明美さんに一言お願いいたします。

結婚後、規模拡大と常にチャレンジをしてきましたが、このような前向きな決断・行動が躊躇なくできたのは妻の支えがあったからに他ならないです。もちろん、優秀な従業員の支えがあったことも言うまでもありません。妻をはじめ、従業員には本当に感謝しています。

札幌  
支所発

## 酪農生産研究会総会開催される

6月22日(金)、札幌市第二水産ビルにて酪農生産研究会の第18回通常総会が開催され、会員農協より担当者7名が出席しました。平成23年度実績や平成24年度事業計画が議題に上り、すべてが可決されました。総会閉会后は、釧路農業改良普及センターより椋本正寿氏を招き、「TMRセンターの現状と課題」と題して講演をいただきました。講演で

椋本氏は問題を抱えるTMRセンターには過剰投資や設立時の計画の甘さがあり、製造飼料価格の高騰と出資酪農家の経営圧迫につながると述べました。解決策としては問題が表面化した時点での速やかな経営の見直しと再編計画を立てること、また農協のサポートが必須であると説明しました。

(T.K)



▲ 講演会



▲ 総会の様子

仙台  
支所発

## 岩中酪青年婦人会議による第19回スポーツ交流会を開催！ — 岩手中央酪農業協同組合 —

7月7日(土)、岩手中央酪農青年婦人会議(小笠原幸子委員長)主催のスポーツ交流会が、本会の北東北酪農センターの敷地で盛大に開催されました。

当日は、雨模様の予想でしたが30℃を超える天候となり、県内各地区から約100名が参加し、軒下に涼を求めながらの交流会となりました。

開会式では、小笠原委員長から「今日は、熱射病に注意して存分に楽しんでください」と挨拶がありました。そして、滝沢地区の桜井善さんの選手宣誓でスポーツ交流会が始まりました。

参加者は県内7地区に分かれ出場しますが、各競技の上位5位まで得点が与えられ、その合計得点で地区優勝を争います。

7月12日からの全国酪農青年女性酪農発表大会に、東北の代表として小笠原委員長が出場さ



▲ 小笠原委員長



▲ 何が入っているの

れるということで、壮行会も兼ねて当地で開催されました。

競技は、まいどおさわがせ(借り物競争)・トワインひも結び・牛乳の早飲・スイカの早食い等の参加者全員が参加できる競技が用意され、会場は終始笑いと歓声で包まれていました。

競技の結果、優勝は北岩手地区、2位は二戸地区、3位は県南地区となりました。

競技終了後は、全員で昼食となり、久しぶりに会う仲間たちと酪農情報の交換はもちろん、近況を報告し合ったりと大いに親睦を深めました。

(N.T)



▲ 借り物って、人？



▲ 大きなスイカに四苦八苦

仙台  
支所発

## がんばろう東北の酪農キャンペーン開催 — 東北酪農青年婦人会議 —

6月30日(土)、東北酪農青年婦人会議（半澤善幸委員長）は、東京都渋谷区にある「こどもの城」の広場で“がんばろう東北の酪農”と銘打ってキャンペーンを開催しました。

この催しは、こどもの城から東北の復興を支援したいとの申し出に、放射能の影響もあり、未だに自給飼料の給与もままならない状況が続いている東北の酪農家が、安心・安全な牛乳を生産するために努

力している事を、東北各県の牛乳乳製品の試飲・試食や「酪農家的一天」「牛乳のできるまで」等のパネル展示・牛乳パックを利用した帽子作りなどを通して、消費者に東北の現状と取り組みを理解して貰うために行いました。

当日は、天候にも恵まれ、牧草遊びに興じる子供たちの笑顔から、日頃の苦勞が吹き飛ばすような楽しい1日となりました。



◀ 会場上から



◀ パネル展示

▶ 牧草で遊ぶこどもたち



▲ 牛乳の試飲



▲ おいしい



▶ 牛乳パックでの帽子作り

こどもの城のホームページ

<http://www.kodomonono-shiro.jp/report/2012/000.html>

のプログラムレポートに当日の様子が載っておりますので、ご覧下さい。

東京  
支所発

## 関東甲信越酪農専門団体協議会 夏季研修会開催

7月4日(水)、長野県軽井沢町の軽井沢プリンスホテルにて、関東甲信越酪農専門団体協議会（会長：茨城県酪農業協同組合連合会 代表理事会長 大槻和夫氏）の平成24年度夏季研修会が、熊本県酪農業協同組合連合会代表理事会長の吉田孝壽氏を講師にお招きして開催されました。

当日は、当協議会会員より31名、事務局7名の



▲ 大槻会長挨拶



▲ 講演する熊本県酪連吉田会長

計38名の出席となりました。開催にあたり大槻会長より「昨年の大震災により酪農専門農協組織の存在意義を再確認した、今後も相互に連携を強めて行こう」とのご挨拶の後、吉田会長より「酪農・乳業界の将来展望について～熊本県酪連が取り組んでいること～」と題して、ご講演を頂きました。

講演では、熊本県酪連の各種事業の現在までの取組みをご説明頂きました。加えて、その歴史を大きく発展させ地域の酪農経営を安定させるために、牛乳製品の輸出や食肉への取組み等、将来に向けて取り組まれている事業内容を解説していただくと共に、今後酪農・乳業界全体と取り組むべき事項についてご講演頂きました。

会員の皆様から様々な質問・意見が活発に寄せられ、この研修で学んだことをこれからの活動に活かしたいとの感想を頂き、有意義な研修会となりました。

(N.H)

東京  
支所発

## 関東甲信越酪肉経営技術研究会 第21回通常総会開催

6月14日(水)、群馬県甘楽郡下仁田町「清流荘」にて関東甲信越酪肉経営技術研究会（会長：伊那酪農業協同組合 総務部長 赤羽秋平氏）の第21回通常総会並びに研修会が開催されました。

当日は、当研究会会員組合（連合会）より9名、事務局4名の計13名の出席により開催されました。

赤羽会長の挨拶の後、赤羽会長を議長に選出し、4つの議案について協議し、今年度の活動方針等全ての議案が承認されました。

総会終了後、(株)全日本畜産公社の佐藤専務を講師に『放射能検査状況と最近の牛肉消費動向について（この1年を振り返って）』と題し放射性物質汚染問題による牛肉の消費低迷、産地間の価格格差等について検証し、今後の消費動向に影響する要因についてをテーマに、研修会が開催されました。引き続き東京支所購買畜産課の名本調査役より『初生牛販売について』と題し、貴重な酪農資源である乳用雄子牛（スモール）

赤羽会長 ▶



◀ 講師の佐藤専務

の本会の取り組みについてご説明し、より一層の出荷協力をお願いしました。出席された会員の皆さんより活発な質問が出され有意義な研修会となりました。

その後、同ホテル内にて懇親会が行われ、情報交換を行うと共に、親睦を深めました。

(N.H)

# 春の褒章 受章記念祝賀会

平成24年6月6日(水)、東京・内幸町の東京會館にて、酪農畜産10団体主催で、春の黄綬褒章を受章した丸尾建城氏(西播酪農業協同組合代表理事組合長)の記念祝賀会が開催されました。本会、砂金基太郎代表理事会長の主催者代表挨拶の後、農林水産省畜産部牛乳製品課菅家秀人課長からご祝辞をいただきました。

丸尾氏は褒章受章に際してのご挨拶の中で、「これからも酪農家の皆さんのために、ますます頑張っていきたい」と謝辞を述べられました。



## 飛騨酪農協より

### 第24回飛騨高山クリーン作戦

7月8日(日)、飛騨酪農農業協同組合の組合員及び関係者13名は、岐阜県高山市「原山市民公園」周辺で行われた「第24回飛騨高山クリーン作戦」(岐阜県高山市快適環境づくり市民会議主催)に参加しました。



このイベントは、清掃活動(ごみ拾い)を行うことを目的としており、今回で24回目の開催になります。

今回の活動では、特定外来植物として近年問題



▲今年9月に開催される「ぎふ清流国体」マスコットキャラクターのミナモちゃんと参加者

になっている「オオハンゴンソウ」、「オオキンケイギク」の駆除も行いました。オオハンゴンソウは種子だけでなく地下茎や埋土種子で繁殖することができ、単純に刈り取るだけでは根絶は難しく、スコップなどで根ごと引き抜かなければなりません。そのため、参加者は照りつける日差しの中、町の美化のために汗を流しました。

(飛騨酪農農業協同組合 酪農部 丸山)

# 見て歩紀



▲(株)T・ユニオンデーリィのみなさん

No.231  
 (株)T・ユニオン  
 デーリィ  
 福島県本宮市

## 復興に向けて 家族で取り組む酪農経営

### 地域の概況

今回紹介する株式会社T・ユニオンデーリィがある福島県本宮市は、福島県のほぼ中央に位置し、市の中央部を阿武隈川が流れ、県内では人口が最も少なく(約30,968人)、面積も最も小さい(87.94km<sup>2</sup>)市となっています。

昔、猪苗代町出身の医学者野口英世が故郷から離れ上京する際、馬車で本宮まで出てきて東北本線の本宮駅で列車に乗り東京までかけたそうです。



▲看板

牧場入口



所属する福島県酪農協同組合(但野忠義代表理事組合長)は、平成23年3月11日の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故の影響を受け、乳用牛飼養戸数234戸(前年比86%)、乳牛飼養総頭数8,161頭(前年比92%)、生乳生産量は43,108t(前年比78.4%)となっています。

### 経営概況

(株)T・ユニオンデーリィは、代表取締役 今野 剛さん(51歳)と取締役 三瓶 利仙さん(56歳)の共同経営で、おふたりと利仙さんの奥さんの恵子さん(53歳)の3名が作業全般を行い、剛さんと姉の恵子さんの両親である幸四郎さん(76歳)とタマノさん(75歳)が哺育や掃除等を行っています。

飼養頭数は、経産牛59頭、初妊牛8頭、育成牛32頭(H24年5月



牛舎外観

現在)を飼養し、生産乳量は、日量1,478kg、乳質は、乳脂肪3・77、乳蛋白3・26、体細胞24・6万、細菌数0・9万(H24年7月前半成績)となっています。経営面では、全酪連DMSシステム(酪農家経営管理支援システム)を活用されている農家でもあります。

震災前は、今野さんが永年牧草の耕地として13ha、三瓶さんが永年牧草の耕地として8ha、デントコーンの耕地として2・5ha作付していました。現在は、原発事故の放射能の影響で、避難地域となっており作付は行えず、全量購入飼料で経営をしています。

現在の牛舎は、避難指示から一時避難として4年前まで酪農を行っていた元酪農家の牛舎を借りて、搾乳を行えるように改修を施し、現在は48頭のタイストールでパイプライン搾乳、18頭のタイストールでパケット搾乳をしています。

### 牧場の沿革

#### 震災以前から震災直後まで

三瓶さん夫妻、今野さん家族共にH23年の東日本大震災以前は、現在警戒区域である浪江町津島地区でそれぞれ酪農を営んでおられました。

今野牧場は、昭和36年に幸四郎さんが酪農に参加し、昭和52年には牛舎を新築し、昭和55年に剛さんが酪農に参加すると、牛群改良にも力が入り、震災前には、搾乳牛33頭、乾乳牛3頭、育成牛17頭、日乳量は1,050kgありましたが、震災後には搾乳牛3頭、乾乳牛23頭、廃用牛10頭、日乳量100kgになってしまいました。

また、三瓶牧場は、昭和52年に利仙さんが大学を卒業されて酪農に参加するまでは、和牛と少数の搾乳牛で経営、参加した後は搾乳牛の頭数を増やしてゆき昭和58年には恵子さんと結婚。その後順調に経営を伸ばして震災前は、経産牛57頭、育成牛18頭、日乳量は1,350kgありましたが、震災後には搾乳牛4頭、乾

乳牛35頭、日乳量100kgになってしまいました。

更に、H23年4月22日に国から計画的避難区域(年間放射線量が高い地域)に指定され、概ね1ヶ月間での避難を余儀なくされ、それから5月に牛の移動制限解除が出るまで餌と燃料をやりくりしながら懸命に牛の世話を続けられました。

#### 震災後、(株)T・ユニオンデリー設立まで

近隣の酪農家が休業してゆくなか、移転して酪農を継続する為には、糞尿の処理が大きな課題で、その課題をクリアする移転先が見つかるまで、悩む日々が続きました。

今野さんと三瓶さんの酪農への強い思いと、福島県酪農協同組合をはじめとする関係者の働きかけによって、本宮市内の堆肥センターを利用できる牛舎を見つける事ができました。

その後、今野牧場の代表である剛さんが代表取締役、三瓶牧場の代表である利仙さんが取締役として共同経営の株式会社T・ユニオンデリーを立ち上げ、今野牧場と三瓶牧場の牛を合せて飼うことにしました。

### 経営の特徴

元酪農家だった牛舎を借りての経営で、住居が隣接していないため、



敷地内に並ぶカーフハッチ

毎朝、剛さんは本宮市内の10分ほど離れた自宅から、三瓶さん夫妻は二本松市内の自宅から30分ほどかけて牛舎へと通い、朝の作業、昼の給餌を経て、夕方の作業まで牛舎で過ごしています。

また、原発事故の影響から自身の耕地を利用できないことから、全量購入飼料を使用しており、加えて牛舎の賃借料が発生しているため、作業面でもコスト面でも、震災前よりも難しい酪農経営となっています。

後継牛は全て自家産であり、子牛は昨年まで一時避難先として福島県

酪農業協同組合が運営する県南哺育センターに預託していました。しかし、今年からは、できるだけ育成牛を飼い、牛舎に置けない牛を全酪連の北海道預託事業を利用し、上牧しています。

糞尿処理については、付近に堆肥センターがある為、基本的に毎日、堆肥センターから朝は9時ごろと、夕方は16時30分に回収があります。堆肥回収時には出す堆肥の準備をしないといけないので、毎日その時間は拘束される事となります。

今後の課題として、堆肥センターに出せる堆肥の量が問題となってくる可能性があります。

### 地域での活動

地元ではない事や住居と牛舎が離れている等、地域の交流が取りづらい部分がありますが、積極的に付近の除草作業に取り組んだりして、地域にとけ込むように努力しています。

### 今後の目標

原発事故当初は、国の避難区域への帰還目標を聞き、とりあえず一時的に拠点を置いて、帰還できる目途が立つまで現在の場所で酪農を続けていくつもりでした。

しかし、震災から1年が過ぎ、実

際に元の浪江町津島地区にいつ戻れるのか、また、戻れるようになってから生産活動が出来るようになるまでどの位かかるのか、更に自給飼料を確保できるようにまでどれ程かかるか、もし仮に帰れるようになっても

どれだけの人間がそこに帰るのか等、分からない事が数多くあります。まず、一時避難の期間が続く限り現在の場所で酪農経営を続け、利益がしっかりと上がるような経営にしてゆく事が現時点での目標だと恵子

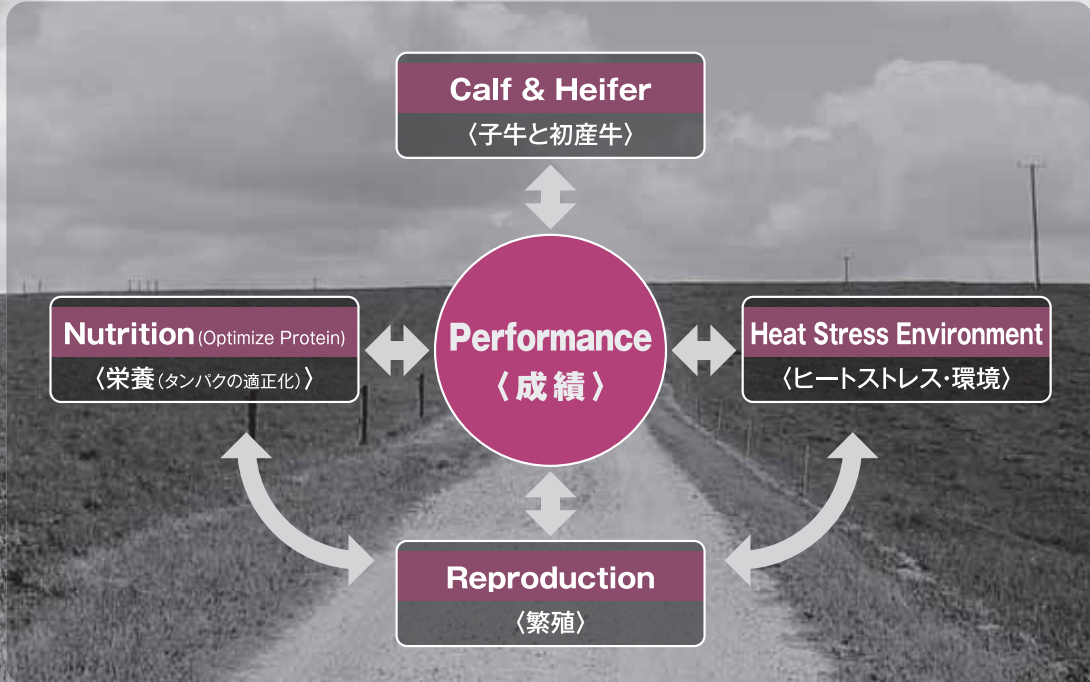
さんは語ってくださいました。最後に、お忙しい中、快く取材に応じてくださった(株)T・ユニオンデーリーの皆様の方々のご発展をお祈り申し上げますと共に、心からの感謝を申し上げます。



牛舎

# ハイ・パフォーマンスに 挑戦! Challenge!

～愛牛を大切にしたい、その想いをささえます～

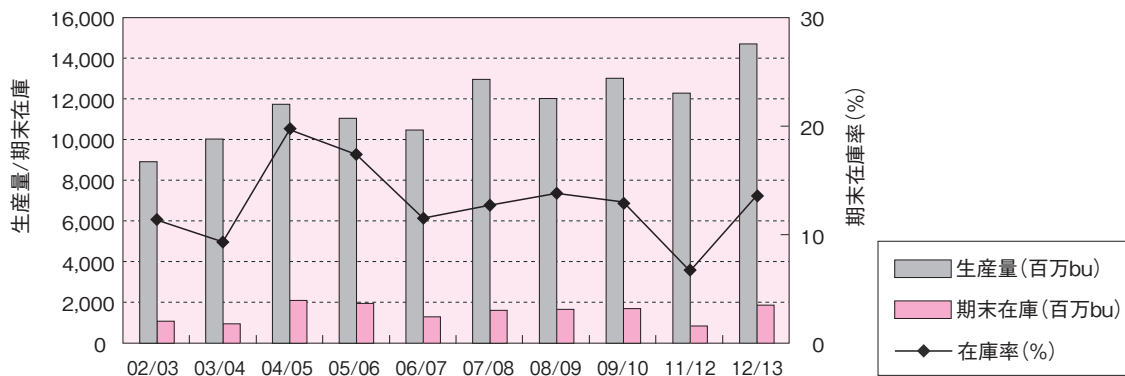


Your Partner 全酪連

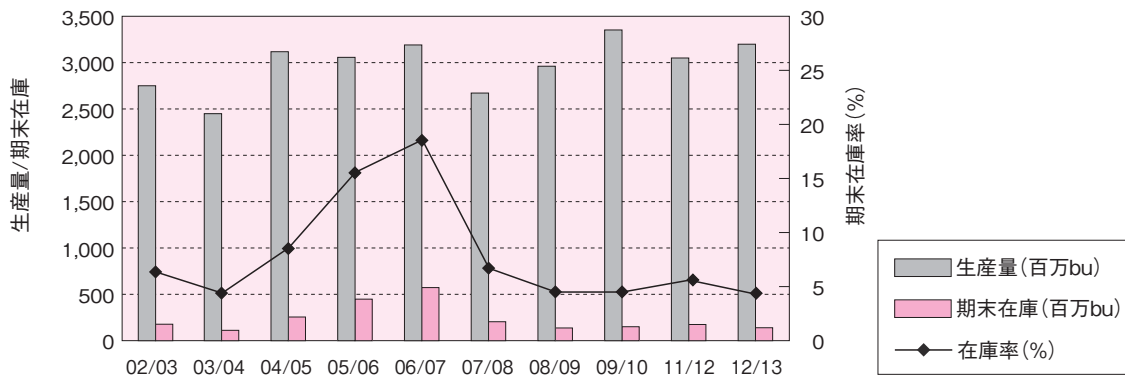
# 原料情勢 平成24年7月

<p>7月11日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想</p>	<p>【11/12年産】 作付面積91.9百万(前月91.9百万) エーカー、単収147.2(147.2) bu/エーカー、生産量123億5,800万(123億5,800万) bu、総需要量126億500万(126億5,500万) bu、期末在庫9億30万(8億510万) bu、在庫率7.2(6.7)%。</p> <p>【12/13年産】 作付面積96.4百万(前月95.6百万) エーカー、単収146.0(166.0) bu/エーカー、生産量129億7,000(147億9,000) bu、総需要量127億2,000万(137億7,500万) bu、期末在庫11億8,300万(18億8,100万) bu、在庫率9.3(13.7)%。</p>
<p>トウモロコシ相場動向</p>	<p>今後のシカゴ相場は、今回の需給予想では史上最大の幅で単収の下方修正が行われたが、主要産地であるコーンベルトでは史上最悪の早魃になるのでは?と言われるほど高温乾燥気候が継続しており、更なる単収、生産量の下方修正があるとの見方は強く、引き続き800¢を超える上値への警戒が必要と思われる。</p>
<p>国内産大豆粕</p>	<p>国内需給については、国産大豆発生量は依然低調、減少分は輸入大豆粕が補っている。現時点で輸入大豆粕は順調に入船。価格については、南米の減産懸念、アメリカの干魃等からシカゴ相場が非常に強含んでいることから値を大きく上げている。輸入大豆粕はここにきて需要が大きく落ち込んでいない中、供給が先細る可能性が出てきており値を上げる結果となっている。シカゴ相場が上昇傾向にあり、大豆の期末在庫も非常に低い水準にあるため今後は更なる上昇に注意する必要がある。</p>
<p>槽糠類</p>	<p>一般ふすまは、小麦の挽砕量は回復基調となっている様子。今後はさらに挽砕量が増えてくると思われる。このため、7-9月は受け渡しには問題がないと思われるが、それ以後は現状の使用量が維持されれば、需給がかなり締まる可能性。グルテンフィードの発生量は、思ったように増えてはいない状況。また、港によっては在庫がタイトになっている模様。</p>
<p>海上運賃</p>	<p>海上運賃は鉄鉱石の国際価格の下落に伴う中国の輸入量の増加、国際的な石炭引き合いの増加により国際輸送船の需要はタイトになっている。またバンカー(船舶用燃料)はイランにおける政治的緊張を背景に上昇しており、総じて強含も展開となっている。</p>

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



# 輸入粗飼料の情勢

平成24年7月

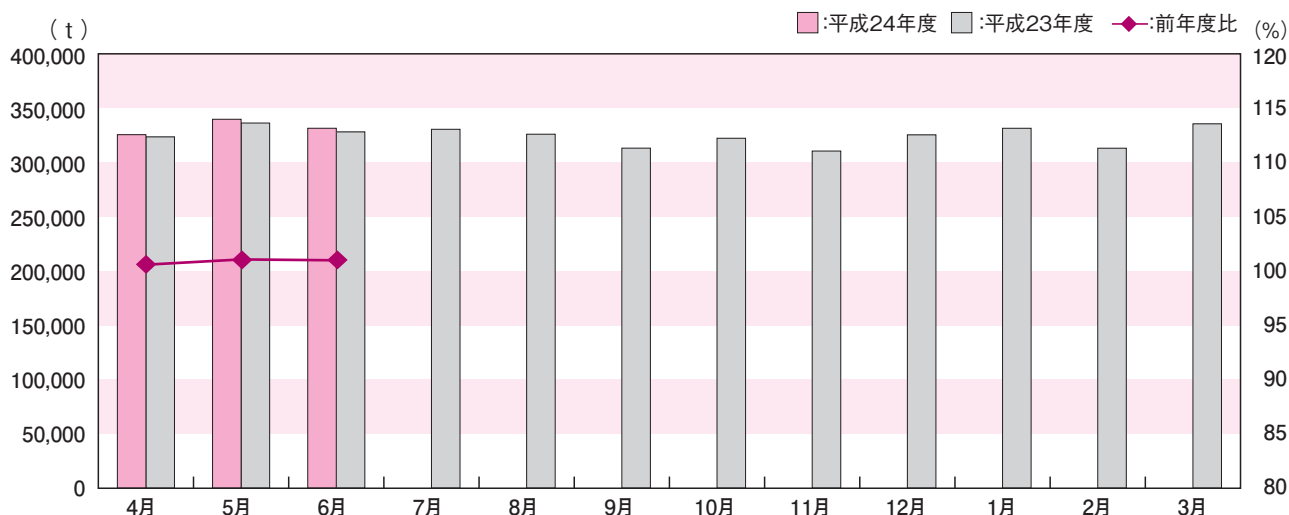
北米コンテナ船 フレート	WTSA加盟の船会社により7月1日付けで再びGRIの値上げ実施の発表がされましたが、ほとんどの船会社で実施は見送られた模様。BAFについては、7-9月分の値上げが実施された。各船会社とも、世界的な不況を背景にコンテナ部門の採算悪化が続いている。輸入量が輸出の増加量に追いついていないPNWでは、引続き空コンテナが不足している。
ビートパルプ	【米国産】12年産ビート大根の作付けが、5月上旬までに終了。作付面積については、昨年よりも微増と見込まれている。4-5月は天候に恵まれて、良好な環境下で作付けが進み、11年産よりもビートパルプの生産量が増えることが現時点では期待されている。
アルファルファヘイ	【ワシントン産】コロンビアベースン南部では、5月上旬から1番刈の収穫が始まりましたが、収穫中に2回以上のまとまった雨に当たった圃場が多く、60-70%が雨当たり被害を受けたと言われている。また、産地では3タイの発生量が大きく減少し、1番刈はほとんどが生産効率の高いBIGベールでの生産となっている。2番刈は、6月下旬から収穫が始まり、7月中旬までには収穫がほぼ終了するかと考えられていたが、6月下旬にエレンズバークで激しい降雨があり、コロンビアベースンでどれほどの雨当たり被害が発生しているか、懸念される。
	【オレゴン産】クリスマスバレーでは、6月下旬から1番刈の収穫が始まっている。6月に入ってからも気温の低い日があり、降雪もあった模様で、生育が思うように進まず、単収が減ることも予想される。クラマスフォールズでは、6月上旬から1番刈の収穫が始まっているが、クリスマスバレーと同様、6月に入ってからも気温の低い日があり、単収が減ることも予想される。
	【ネバタ産】6月上旬から1番刈の収穫が始まっているが、6月中下旬に降雨があった模様で、40-50%程度が雨当たり被害を受けたと伝えられている。この地域では、UAE・中国向けにも旺盛な引合いがあるため、BIGベールでの収穫が増える傾向にあるが、天候の影響を懸念して、12年産ではさらに増えていることが予想されている。
	【ユタ産】5月下旬より1番刈の収穫が始まり、6月下旬までには終了。収穫時期の天候は概ね良好で、雨当たり被害はほとんどなかった模様。
チモシー	【カリフォルニア産】インベリアルバレーでは、4番刈の収穫がほぼ終了。気温は40℃を超える日もあることから、一般的に成分・品質が落ちる「サマーヘイ」と呼ばれるアルファルファの発生が多くなっている。以前は比較的安価になり始める時期だったが、近年では輸出向けの引合いも年々強くなってきているため、需要次第では産地価格も大きく変化する懸念がある。
	【米国産】12年産は1番刈の収穫が6月中旬から本格的に始まった。生育状況は良好と伝えられ、良品の収穫が期待されていたが、6月下旬に発生した激しい降雨により、状況が一変。エレンズバーク、コロンビアベースンともに、40-50%程度が雨当たり被害を受けたと言われている。当初は軟化することが予想されていた産地価格も、一転して堅調に推移し、さらに高騰することも懸念され始めている。
チモシー	【カナダ産】レスブリッジでは、冷涼な気候により、生育が1週間ほど遅れている模様。1番刈の収穫は、7月中旬から始まると予想。ドライランド産でも、冷涼な気候により、生育が1週間ほど遅れている模様。1番刈の収穫は、8月以降に始まると予想。両産地とも、米国産1番刈の状況を受けて、12年産は引合いが強まることが予想される。
	【インベリアルバレー産】12年産は、1番刈の収穫が6月上旬から本格的に始まっている。小麦の作付面積が増える一方で早播きスーダングラスの作付面積が少なく推移していたが、小麦収穫後に播種する遅播きのスーダングラス（アフターウィート）が増えてきている。スーダンの種子価格高騰を受けて、一部の生産農家では、面積あたりの播種量を減らして密集せずに生育させていることや、例年よりも早くから40℃を超える暑い日が続いていることから、茎がために仕上がっているスタックや、茎サイズにバラつきが目立つスタックが多い模様。
スーダン	12年産の作付面積は、前年対比109%となっている。2番刈の収穫が終了し、現在3番刈の収穫が始まっているが、例年よりも早くから40℃を超える暑い日が続いていることから、茎が硬めなスタックも見られ始めている。韓国と日本向けに強い需要が12年産も続くと思われているため、産地価格は引続き堅調に推移している模様。
バミューダ	12年産の作付面積は、前年対比100%となっている。現在バミューダヘイ用の圃場では、2番刈の収穫が始まっている。バミューダ種子の価格高騰により、国内向け、輸出处ともに強い需要が12年産も続くと思われており、今後も引続きタイトで、産地価格も弱含むことなく推移することが予想されている。
ストロー類	12年産について、フェスキューストローは7月中旬から、ライグラス（ペレニアル種）ストローは7月下旬から収穫が始まる見込み。作付面積は年々減少しているが、今年もやや減少することが予想されているため、12年産以降もストロー類は生産量がさらに減少し、産地価格も弱含むことなく推移することが懸念される。
オーツヘイ	【西豪州産】5月上旬に降雨があり、5月中下旬から播種が本格的に始まる。6月にも十分な降雨があり、生育は順調と伝えられている。ここ数年の不作で輸出向けオーツヘイを生産できない圃場も多く、生産農家は厳しい経営を強いられており、安定した収入が見込める穀類への転作が多いと予想されるため、12年産の作付面積は10%以上も減少することが予想されている。
	【南豪州産】5月上旬から播種が始まる。5月下旬にまとまった降雨があり、6月にも十分な降雨があったため、生育は順調と伝えられている。西豪州からシフトしてきた旺盛な11年産の引合いを背景に、12年産の作付面積は10%ほど増えることが予想されている。
	【東豪州産】ヴィクトリア州では5月下旬から播種が始まる。6月にも十分な降雨があったが、寒い日が続いたため、生育はやや遅れ気味であると伝えられている。南豪州同様、西豪州からシフトしてきた旺盛な11年産の引合いを背景に、12年産の作付面積は増えることが予想される。

# 平成24年度（6月）地域別生乳生産量

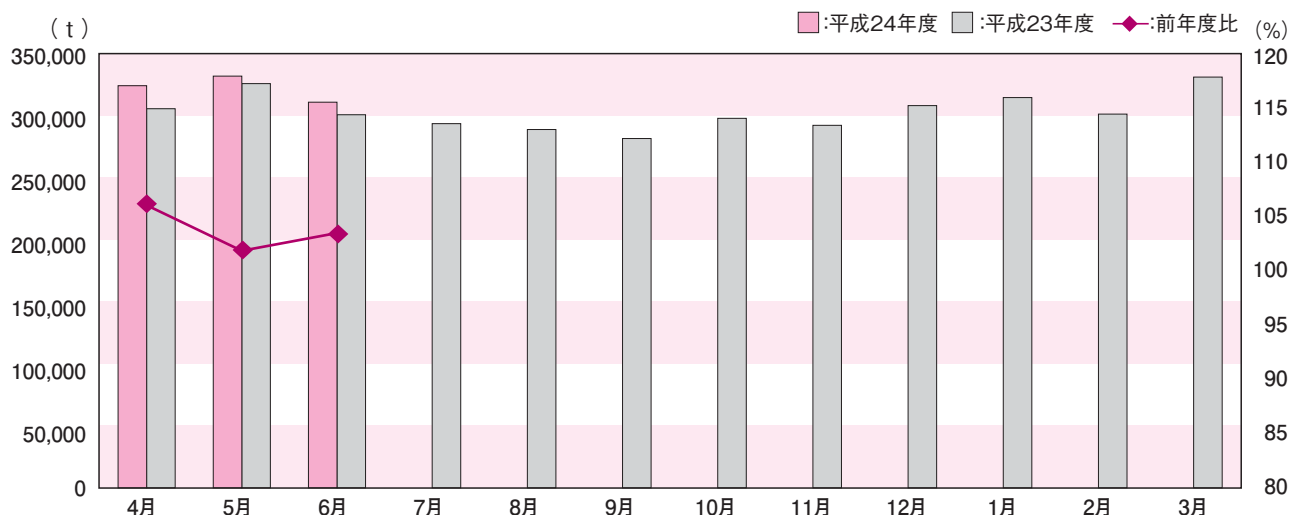
単位：t

	全国	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
23年度 6月	628,574	327,964	47,467	8,678	89,927	11,199	33,209	16,713	25,181	11,497	54,408	2,331
7月	623,805	330,363	47,146	8,259	87,626	11,259	32,171	16,385	24,631	10,943	52,721	2,301
8月	614,552	325,838	48,003	8,025	85,889	11,088	31,040	16,162	24,107	10,659	51,538	2,203
9月	594,466	313,005	47,323	7,707	82,863	10,857	30,317	15,519	23,565	10,534	50,642	2,134
10月	619,843	322,112	50,137	8,147	88,027	11,085	32,618	16,214	24,827	11,039	53,418	2,219
11月	602,420	310,328	49,086	7,959	86,312	10,743	32,225	16,013	24,147	10,937	52,508	2,162
12月	633,207	325,234	51,663	8,513	90,717	11,280	33,692	17,036	25,222	11,636	55,987	2,227
1月	645,750	331,298	52,019	8,829	92,456	11,185	34,749	17,486	25,865	12,036	57,569	2,258
2月	614,082	312,946	49,521	8,382	88,672	10,472	33,129	16,653	24,789	11,472	55,775	2,271
3月	666,347	335,386	54,152	9,249	97,760	11,542	36,017	18,526	27,139	12,421	61,632	2,523
24年度 4月	649,417	325,403	53,039	9,170	96,089	11,050	35,816	18,021	26,669	12,113	59,575	2,472
5月	671,328	339,593	54,297	9,227	98,067	11,665	36,780	18,427	27,627	12,313	60,803	2,529
6月	642,043	331,311	51,516	8,701	91,724	11,050	34,328	17,034	25,850	11,373	56,767	2,389
前年同月比	102.1%	101.0%	108.5%	100.3%	102.0%	98.7%	103.4%	101.9%	102.7%	98.9%	104.3%	102.5%
24年度 累計	1,962,788	996,307	158,852	27,098	285,880	33,765	106,924	53,482	80,146	35,799	177,145	7,390
前年同月比	102.3%	100.9%	112.8%	99.1%	103.4%	98.9%	102.0%	100.4%	101.5%	97.9%	102.9%	101.4%

## 北海道の月別生乳生産量



## 都府県の月別生乳生産量

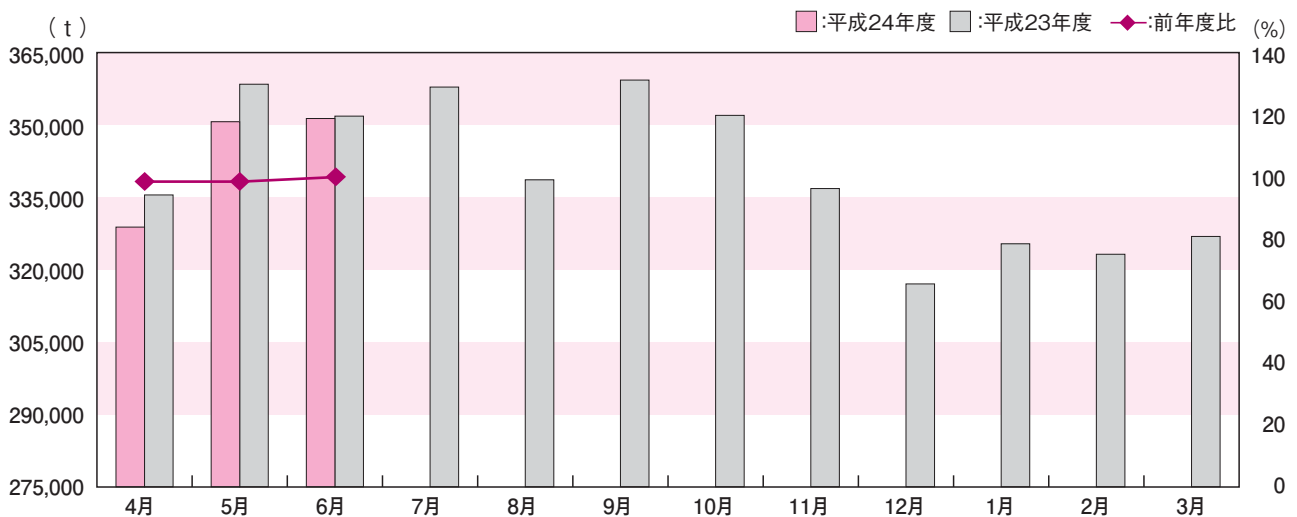


# 平成24年度（6月）用途別処理量

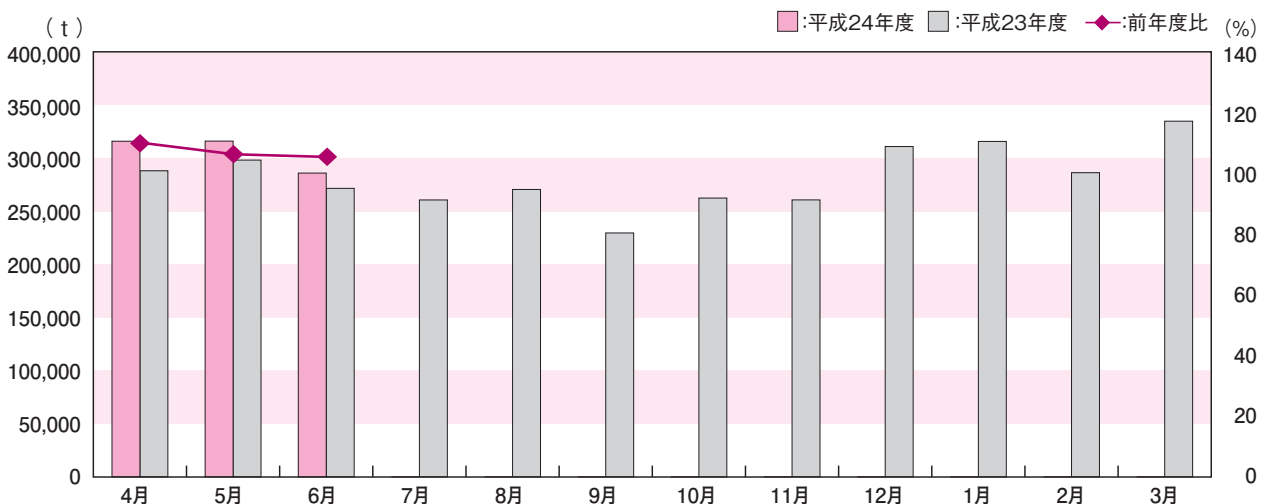
単位：t

	用途別処理量							その他	欠減
	生乳生産量	牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	チーズ向け	クリーム等向け			
23年度 6月	628,574	351,800	23,936	271,407	41,464	99,952	5,367	953	
7月	623,805	357,820	21,463	260,499	40,080	106,648	5,486	1,054	
8月	614,552	338,603	24,216	270,357	40,712	106,994	5,592	1,102	
9月	594,466	359,270	27,189	229,452	32,181	104,967	5,744	1,192	
10月	619,843	351,958	29,171	262,271	38,368	110,428	5,614	1,076	
11月	602,420	336,798	29,374	260,547	38,338	108,557	5,075	886	
12月	633,207	317,039	27,191	310,749	39,974	109,880	5,419	957	
1月	645,750	325,351	24,812	315,558	46,565	96,795	4,841	1,002	
2月	614,082	323,184	25,383	286,133	45,293	99,089	4,765	961	
3月	666,347	326,874	28,301	334,591	48,467	109,346	4,882	1,038	
24年度 4月	649,417	328,810	27,221	315,743	41,550	105,614	4,864	1,014	
5月	671,328	350,642	23,794	315,862	44,713	107,516	4,824	1,019	
6月	642,043	351,307	22,672	285,771	40,825	106,295	4,965	1,144	
前年同月比	102.1%	99.9%	94.7%	105.3%	98.5%	106.3%	92.5%	120.0%	
24年度 累計	1,962,788	1,030,759	73,687	917,376	127,088	319,425	14,653	3,177	
前年同月比	102.3%	98.6%	100.6%	107.0%	100.7%	108.3%	90.4%	97.1%	

## 牛乳等向け処理量の推移



## 乳製品向け処理量の推移



※農林水産省統計部が公表した「牛乳乳製品統計」をもとに本会酪農部で集計した。

人事異動

新	旧	氏名
<b>■平成24年8月1日付異動発令</b>		
指導・企画部 部長	福岡支所 支所長 兼 酪農課長	中島 裕志郎
管理部 財務課 課長	福岡支所 総務課 課長	佐藤 一昌
購買部 部長 兼 購買企画課長 兼 畜産課長	購買部 部長 兼 酪農生産指導室長 兼 購買企画課長 兼 畜産課長	小谷 英穂
購買部 購買推進課 課長代理	大阪支所 中四国事務所長 兼 三次駐在員事務所長	飯島 洋一
購買部 酪農生産指導室 室長	仙台支所 次長 兼 購買畜産課長	山崎 正典
札幌支所 帯広事務所 事務所長	仙台支所 北東北事務所 事務所長	三枝 岳敬
仙台支所 次長	福岡支所 宮崎県南部酪農業協同組合	直 則光
仙台支所 購買畜産課 課長	東京支所 栃木駐在員事務所 事務所長	白鳥 建樹
東京支所 購買畜産課長 兼 栃木駐在員事務所長	東京支所 購買畜産課 課長	鈴木 有希津
大阪支所 購買畜産課 課長	札幌支所 帯広事務所 事務所長	丸山 惣太郎
大阪支所 中四国事務所長 兼 三次駐在員事務所長	大阪支所 近畿駐在員事務所 事務所長	合原 博俊
福岡支所 支所長 兼 酪農課長	大阪支所 支所長	徳永 幸男
福岡支所 次長 兼 総務課長 兼 指導組織課長	管理部 副部長 兼 財務課長	上田 雅一
福岡支所 次長 兼 畜産課長	福岡支所 次長 兼 指導組織課長 兼 畜産課長	直井 順一
購買部 全国酪農飼料(株) 部長待遇	指導・企画部 部長	近藤 祥史
<b>■平成24年8月1日付昇格発令</b>		
指導・企画部 指導組織課 課長代理	指導・企画部 指導組織課 副審査役	中村 宏行
札幌支所 次長 兼 総務課長 兼 指導組織課長	札幌支所 総務課長 兼 指導組織課長	中山 充
札幌支所 次長 兼 畜産課長	札幌支所 畜産課 課長	鳥山 順史
札幌支所 畜産課 課長代理	札幌支所 畜産課 副審査役	橋本 卓
仙台支所 北東北事務所 事務所長	仙台支所 北東北事務所 事務所長代理	矢口 正史
名古屋支所 購買畜産課 課長代理	名古屋支所 購買畜産課 副審査役	蒲田 泰介
大阪支所 支所長	大阪支所 次長 兼 購買畜産課長	大森 一幸
大阪支所 近畿駐在員事務所 事務所長	大阪支所 購買畜産課 副審査役	炬口 浩司

## お知らせ 節電目標の改定について

関西電力の大飯原子力発電所3・4号機の再起動に伴い、中西日本(中部、関西、北陸、中国、四国、九州電力)の節電目標が改定されました。詳しくは、経済産業省のHP等でご確認ください。

<http://www.meti.go.jp/>

# 北海道 乳牛産地情報

平成24年8月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765  
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇄……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27~32	→	札幌管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で101.7%、累計で100.9%。苫小牧管内月計で100.7%、累計100.4%の実績となっております。初妊牛の価格動向ですが秋分娩が中心になる事により、府県需要は強く望めないことから品質による価格差は大きくなり、全体的には弱含みでの取引になるものと思われます。経産牛につきましては良質な物を中心として横這いで推移し、同様に、育成牛につきましてもこれから授精できる育成牛を中心に横這いの価格で推移するものと思われます。
	初妊牛	46~50	↓	
	経産牛	40~45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~37	▲	根釧管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で102.1%、累計で100.8%。中標津管内月計で103.4%、累計で101.9%の実績となっております。今月の初妊牛の動向ですが、10月腹中心で動くものと思われます。ここ2年くらい8月の相場は高騰しており、大規模農家、また、地元の増頭に対する助成や新規就農者の導入などもあり、盆明け頃より購買が集中すると思われ、それに伴い価格も堅調に推移する可能性もあります。ホルズ選別腹や受精卵腹については資源に限りがありますので、早めの連絡をお願いします。
	初妊牛	48~55	→	
	経産牛	40~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	帯広管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、月計で102.1%、累計で101.2%の実績となっております。8月の初妊牛価格の動向については、秋分娩が中心となるため横這いで推移するものと思われます。しかし、生乳生産の状況次第で、秋導入に向けて需要が高まっていくことも予想されますので今後、価格が上昇していく可能性もあります。経産牛につきましては、道内購買客を中心に、横這いで推移するものと思われ、また、育成牛は資源不足もあり、依然として高値で取引されています。
	初妊牛	48~53	→	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~30	→	道北管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で100.8%、累計で100.3%、北見管内月計で102.3%、累計で100.1%の実績となっております。今年の牧草は、天候が良く、収量は若干少なめですが良質な牧草が収穫でき、現在2番刈りが始まったところ。8月の初妊牛価格の動向ですが、10月~11月分娩が中心となります。8月後半から、秋導入の動きは活発化し、相場は横這いで動くものと思われます。
	初妊牛	47~52	→	
	経産牛	40~47	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~35	→	道内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、月計で102.3%、累計で101.1%と生産を伸ばしております。今年の1番牧草は、十勝管内では収量は採れており、品質も概ね良好です。根釧、道北地区は、若干干乾、低温であったため収量は少なめですが、品質は概ね良好です。8月の初妊牛動向ですが、10月分娩が中心となります。導入も盆明けからとなりますので、価格は横這いで推移すると思われ、しかし、秋導入に向けて動きが活発になることが予想されており、8月末以降については価格が上昇していく可能性もあります。導入の予定がありましたら早めのご連絡をお待ちしております。
	初妊牛	48~53	→	
	経産牛	45~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

## 今月の表紙

### 「酪農いきいきフォトコンテスト」応募作品

今月の表紙は、「第3回酪農いきいきフォトコンテスト」(第41回全国酪農青年女性酪農発表大会にて開催)で最優秀賞に輝いた作品(北海道 富岡 一也氏 撮影)です。被写体の牛と猫に向けられる富岡さんのやさしい視線が、多くの方々の共感をえました。



▼7月中旬の九州北部豪雨により、福岡、熊本、大分の3県で大きな被害が発生しました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

▼紙面でも紹介させていただきましたが、7月12日及び13日、神戸国際会議場にて第41回全国酪農青年女性酪農発表大会が開催されました。3年ぶりの開催となった大会ですが、全国各地より約550名の方々にご参加いただきました。ご協力いただいたすべての皆様に、深く御礼申し上げます。

▼来年は7月11日、12日に熊本県熊本市のホテル日航熊本にて開催予定です。皆様とまたお会いできることを楽しみにしています。

編集後記

平成24年8月10日発行(毎月1回10日発行)

**ZENRAKUREN**  
 MEMBER'S INFORMATION  
 全酪連会報 8月号 No.563

●編集・発行人 中島 裕志郎  
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会  
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号  
 TEL 03-5931-8003  
<http://www.zenrakuren.or.jp/>



今月の



## 入賞作品介绍

元気な牛たちと私の絆

中央小学校(東北)6年 石澤 愛



**今**月の入選作品は、中央小学校(東北)6年の石澤 愛さんの「元気な牛達と私の絆」です。

4頭の牛さんと女の子の配置が絶妙です。牛さんの個性がうまく描き分けられています。女の子の笑顔や子牛さんの舌など躍動感のある清々しい作品に仕上がっています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第39回らくのうこどもギャラリー」で全国461点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議